

# 派遣留学生帰国報告書

\* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2021/2/7
所属学部・ 研究科・学府	国際教養学部
所属学科・専攻	国際教養学科

## 1. 留学先について

留学先大学名	York St John University										
留学先所属学部等	Business School										
留学期間	出発日	2019/9/15	入学日	2019/9/16	修了日	2020/5/2	帰国日	2020/3/22			
住居	大学(紹介)の寮・アパート	<input type="radio"/>	民間アパート	<input type="radio"/>	その他( )						
	通学時間	20分					On campus				
	通学方法	徒歩									
	居室スペース	個室	<input type="radio"/>	( ) 人部屋	その他( )						
	共有スペース	完全個室	<input type="radio"/>	キッチン	<input type="radio"/>	トイレ	<input type="radio"/>	バス	<input type="radio"/>	リビング	<input type="radio"/>
食事	自炊	98 %	学食	0 %	外食	2 %	その他	( ) %			
保険	海外旅行保険(名称)	ジェイアイ傷害火災保険 t@bihoたびほ									
	派遣先大学指定の保険(名称)							<input type="checkbox"/> 強制加入			
	その他										
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)										
	成田 ⇄		ロンドン(飛行機)			⇄ ヨーク(電車)					

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	1,080,000 円							
出どころ								
自費	貯金	100,000 円	アルバイト	円	その他	円		
援助	両親	420,000 円	家族・親戚	円	その他	円		
奨学金	JASSO	560,000 円	その他名称( )	円				
その他	その他( )							円

## 2-1. 財政管理の方法

渡航時		現金	100,000 円		その他 ( )	円
留学中	○	海外送金		キャッシング		その他 ( )

## 2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	
住居にかかった費用	クレジット
その他	

## 2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			150,000	円
海外旅行保険			12,000	円
OSSMA				円
査証・在留許可証				円
住居			420,000	円
食費			210,000	円
通学に要する交通費			0	円
教科書、教材費			0	円
その他大学に支払った経費				円
光熱費			0	円
その他 ( )				円
その他 ( )				円
その他 ( )				円
その他 ( )				円

## 3. 学業面

履修科目名	種類 <sup>ex.正規、聴講</sup>	単位数	単位互換認定申請の有無			
			○	有		無
1 Tourism Industries	正規	20	○	有		無
2 Hospitality and Events in the 21st Century	正規	20	○	有		無
3 Study for Success	正規	20	○	有		無
4 British Sign Language Beginners 1	正規	20		有	○	無
5 Childhood	正規	20	○	有		無
6 Social Inequalities: Key Themes	正規	20	○	有		無
7				有		無
8				有		無
9				有		無
10				有		無

## 3-1. 授業科目の選択、登録方法

前期が始まる約3カ月前(6月中旬)に先方から留学生が取れる授業一覧のファイル付きのメールが送られてきて、その一か月後(7月中旬)までに希望を提出する。履修できるのは基本的に各学期で3つ。優先3つ、予備3つを選んで計6つの希望を出す。同じことお後期も行い、前期中にメールが届く。留学生は学部関係なく、留学生が取れる授業の中であつたらどの授業でも選択が可能。

## 3-2. 授業内容、方法に関して

基本的には1つの授業がレクチャーとセミナーに分かれている。イメージ的にはレクチャーでは先生からの一方的な講義、セミナーは少人数に分かれてレクチャーに関するワークショップを行うというような感じである。大体レクチャーもセミナーも1.5時間から2時間で、一つの授業で一週間に2コマ系3時間から4時間。つまり、一週間に2時間弱のコマを6個受ける感じ。しかし、レクチャーとセミナーが一緒になっているものもあるし、どちらかしかないものもある。

## 3-3. 語学力について

日本人も含めて留学生の受け入れを多くしてきているため、全体として留学生へのサポートはしっかりしている。授業に関しては現地学生と一緒に受けるため、授業によって語学面での難易度はバラバラであるが、もしついていくのが大変で、先生にその旨を伝えたら対処してくれる。授業によると思うが少なくとも私が履修した授業は全て多くて20人ぐらいであつたため、気軽に先生にとよれると思う。

## 3-4. 図書館など学内施設について

学校は比較的新しく、校舎はとてもきれい。図書館も設備が整っていて、キッチンなどがついていたたり、24時間図書館を利用できたりする。校舎全体が広すぎず、移動もしやすい。飲食も基本的にどこでもできる。敷地内に朝昼の食事が出る食堂のような場所、2つのカフェ、バーなどがある。

### 3-5. その他

留学生用のサポートデスクなどもあって、何か困ったことがあればすぐに対応してくれる。学校が始まる前に留学生用のオリエンテーションもあり、そこで留学生同士のつながりもできる。また、卒業生が寄付したキッチン用品や日用品(ハンガーなど)のフリーバザーも学校が始まる前(もしくは始まってすぐぐらい)にあるため、急いでいろいろ揃えなくてもよい。

## 4. 生活面

### 4-1. 住居について

入る寮によって学校へのアクセスのしやすさが全然違う。基本的に2つの寮から選択が可能。一つは学校から徒歩10分圏内、もう一つは25分圏内。イギリスの気候的に冬などは雨が多いため、遠いほうの寮に入る場合は一度登校したら一日中学校にいるという日が多くなると思う。

### 4-2. 食生活について

外食は高い印象。スーパーなどで食材は日本と同じぐらいの価格で買える。イギリスの食事はおいしくないという世間のイメージがあるが、まずいと思ったことはない。

### 4-3. インターネット環境、携帯電話について

学校と寮ではWi-Fiが使用できる。現地でSIMカードを購入した。月に8ポンド2ギガのデータを買っていた。外でやたらと使うことがなければ2ギガで足りる。

### 4-4. 服装について

夏は短いため、真夏の格好はあまり必要ないと思う。冬は0度ぐらいまで下がり、雨が多い。雪は降ることもあるが、あまり積もらない。

### 4-5. 健康管理について

特に大きな病気にはかからなかった。学校に保健所のような場所があり、気軽にそこを利用することもできる。

### 4-6. 保険、OSSMAの利用について

特に使用なし

### 4-7. 課外活動について

後期から街の観光ボランティア(Visit York)を一回3時間のシフトを週に2回ほど入っていた。現地の人や観光客に対して質問に答えたりしていた。

### 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

街の教会が主催する、毎週月曜日に開かれるインターナショナルカフェに参加していた。地域の人たちと留学生が交流しながらイギリスの文化に触れたり、言語を学んだりしていた。自分が通っていた大学だけでなく、他の大学の留学生も参加していて、コミュニティーを広げるのにとってもよかった。

#### 4-9. 日本から持参してよかったもの

カイロ、インスタント味噌汁などの日本の食べ物、ヒートテック

#### 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

大量の文房具

#### 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

イギリス人は意外に、人と人との距離を感が日本人と似ている。アメリカやヨーロッパの人たちがやるようなハグやキスは全くしない。地域によってアクセントの差が大きく、大学では聞き取りやすい英語と聞き取りにくい英語が混じっている。自分が一番初めに困惑したのは、「are you alright?」が「how are you?」として使われていること。

#### 4-12. 余暇の過ごし方

旅行

【ルーマニア(ブカレスト)、イタリア(ローマ・フィレンツェ・ヴェネツィア・ミラノ)、スイス(チューリッヒ)観光】  
2019年12月-2020年1月(22日間)約11万円  
【スペイン(マドリッド・バルセロナ)観光】2020年1月(5日間)約5万円

その他 \* 気分転換やストレス発散法など。

ストレスが溜まったときなどは同じ日本の留学生に話を聞いてもらったりしていた。ストレスで押しつぶされて何もやる気が起きなくなるより、日本人でもいいからしっかりと解消していくことが大切だと感じた。また、留学生向けのイベントにはほとんど参加して、お互いに思っていることを話すことでストレス発散になったと思う。勉強における気分転換は、勉強する場所を変えることで補っていた。寮から学校まで徒歩で20分以上かかっていたが、案外その歩きが気分転換になっていた。また、学校のジムにも加入したり、毎朝軽いランニングするなどして、定期的に運動をしていた。

## 5. その他

### 5-1. 留学先大学について

自分が派遣された大学はとても留学生にやさしい学校であったと思う。留学生向けのプログラムやサポート、イベントが充実していた。学校の施設も新しく、緑がたくさんあったため、充実した楽しいキャンパスライフが安心して送れる場所であると思う。大学は歴史的な街並みが観光客に人気のヨークの中心地に隣接していて、空き時間に街へ出て観光することもできる。寮と大学の通学路は大きな通りで、スーパーをはじめとするお店も多く、安心かつ便利な立地である。

### 5-2. 留学希望者へのアドバイス

単位交換や自分の専門科目など、留学前に考えなくてはいけないことがたくさんあると思うが、貴重な機会を生かして、自分が興味ある授業を受講することをお勧めする。たくさんのイベントや活動に参加することは体力や気力のいることだが、必ず何か得るものはあるため、積極的に参加すべき。

## 5-3. 留学を終えて

私にとっては2回の長期留学体験であった。一回目は高校生の時のアメリカ留学であったが、その時はホームステイで、現地の高校に通っていたものの、留学の目的が学問というよりも文化交流であった。今回のイギリス留学は、自分の学びを追求するための留学であり、寮に住むなど、そもそもの生活スタイルが大きく違った。そのような面で2回目とはいえ、何もかもが初めての経験のようで、とても刺激のある留学生活を送れたと思う。自分自身で何でもやらなくてはいけない状況下で物事への責任感が強くなったことは大きな財産である。安っぽい言葉になってしまうが、「なんとかなる」精神を持てるようになったのも、比較的ネガティブ志向だった私にとっては大きな変化であった。コロナの事態で早期帰国となってしまったが、日々充実した生活を送っていたため、後悔はない。また、留学生としてどういうときに辛くて、どういうときに大変か身をもって体験したことを生かして、今後は日本に来ている留学生のサポートをしていきたいと思う。進路については就職を今のところを考えているが、いい意味で留学をとして視野が広がったため、業界などはあえて絞っていない。